

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Estimating chronic disease deaths and hospitalizations due to alcohol use in Canada in 2002: implications for policy and prevention strategies. アルコールによる慢性疾患による死亡と入院の評価：2002年カナダのデータから</p>	
執筆者	
Jürgen Rhem, Norman Giesbrecht, Jayadeep Patra, Michael Roerecke	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Prev Chronic Dis. 2006 Oct;3(4):A121.	
キーワード	
アルコール、カナダ、飲酒による死亡、慢性疾患、ハイリスク	
要 旨	
<p>目的： 飲酒は、慢性疾患の罹患率や死亡率を上昇させる。本研究は、2002年のカナダにおけるアルコール性慢性疾患罹患と死亡の種々の指標について推計する。</p>	
<p>方法： 死亡率、罹患率情報は、カナダ統計およびカナダ健康情報データベース研究所の情報から得られた。アルコール使用に関する情報は、アルコール依存調査から得られ、一人当たり重み付けされ計算された。危険因子に関する情報は、公表された論文情報からとり、年齢、性別のアルコールによる罹患割合、死亡割合を計算する情報と結合された。</p>	
<p>結果： 2002年におけるカナダでは、1631例の70歳未満のアルコール関連疾患による死亡があった。これは、この年齢層の死亡の2.4%にあたった。これは、次の差し引きの値の結果である。すなわち、2577例の死亡がアルコール消費で生じ、逆に、947例の死亡がアルコール消費によって予防された。中等度までの飲酒では、死亡例の25%が生じ、その85%が予防された。2002年は、42,996人年の損失がアルコールによって生じた。その内訳は、男性28,890、女性14,106人年の損失であった。91,970例の差し引きの入院がアルコールによって生じた。その内訳は、124,621人の入院例が生じ、逆に、32,651の入院が予防された。</p>	
<p>結論： アルコール消費量の増加と危険な多量飲酒量者の増加により、アルコールによる慢性、急性の健康障害の増加が懸念される。そのため、効果的な予防政策の立案と対策の実施、アルコール飲用の制限、多量飲酒者の減少、多量飲酒者への短期介入等が必要である。</p>	